

変革促す対話 ミーティングで 経営力向上



羽賀 修平

HAGA Shubei

Office Shu株式会社
代表取締役
(北海道札幌市)

私は、東京都内で銀行員としてキャリアをスタートした後、一次産業に興味を持ち日本公庫に転職いたしました。

公庫で一次産業向けの融資業務に携わるうちに、農林水産業は設備投資負担が非常に大きく、投資回収期間も長いこと、つまり産業構造としてリスクが大きくなりがちということ強く実感しました。

そこで経営者の隣で同じ方向を向きながら、しかし経営者とは違う視点で一緒に悩み、考える役割があれば、事業運営や農林水産業特有のリスクをうまくコントロールできるのではないかと考え独立開業しました。現在は主に一次産業の経営支援に携わっています。

現場ではさまざまなアプローチで支援をしていますが、経営者だ

はがしゅうへい

1981年愛知県生まれ。金融機関勤務を経て2021年に札幌市で独立開業。中小企業診断士や林業経営アドバイザーなどの資格も生かし、一次産業を中心に中小企業向けの経営支援を展開。

けでなく、従業員とも一緒に取り組む観点で社内ミーティングを活用して経営改善を進めることができます。

ある畜産会社では、事故率(家畜が死亡する率)の高さに悩んでお

ることが減り、品質やスピードの安定化と人件費の抑制を両立することができました。

このように、社内ミーティングをすると経営者も従業員の潜在能力に驚くことがよくあります。



© 縄手 英樹

り役員、正社員、パート、外国人技能実習生も含む全社員を集めてミーティングをするようにしました。そのなかで主要な経費を予算化し、畜舎内の環境整備の考え方、治療の優先順位などを明確にしたことでコストを下げながら事故率を低減することができました。

林業の会社では社内ミーティングで部門ごとの課題を共有することで、従業員の多能化を進め、部門ごとの繁閑を社内で調整できるようにしました。これにより作業に不慣れな臨時雇用者に頼

さらに、農林水産業の仕事は他の産業にない魅力がたくさんあります。従って、そこで働く人々もその仕事や地域を本当に好きな方が多い、つまりモチベーションが高いという印象を持っています。

その一方で、地域に根差したオンリーワンの企業が多く、他社や他産業の事例を参考に改善を進めるのが難しい側面もあります。

経営改善のヒントは必ず社内にありますから、経営者の皆さまとこれからもよい悩み方を追求していきたいと思います。



農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。